

認定心理士の会から

多数のイベントで賑わう認定心理士の会

私が学生の頃に（勝手に）抱いていた認定心理士のイメージは「各自で」専門性をもとに社会とかかわりをもつというだけのものでした。研究・教育機関等に所属していない多くの方は学会に参加する機会も少ないと考えていたことに起因するものと思います。しかし、2017年より認定心理士の会の幹事として参加する中で、そのイメージは大きく変化しました。2016年に発足した認定心理士の会は、学会大会とは別に認定心理士が研鑽を積むための多くのイベントを提供し、会員間でのコミュニケーションをとりながら交流を深められる会となっています。こうして「各自が」活動するというイメージから、会員がコミュニケーションをとり、「相互に」作用しながら活動するイメージへと変化しました。

そして会員の方々が交流する機会は年々増

えています。2016年度当会はシンポジウム等、全部で5件のイベントを開催しました。現在では、北海道、東北、北陸、関東、東海、近畿、中国・四国、九州・沖縄の各地方支部会による年2回程度のイベント開催に加えて、オンラインイベント「Net de 交流！ 認定心理士」が加わり、飛躍的に交流の機会が増えました。毎月のように多彩なイベントが皆様に届けられています。先日私が担当する東北支部会では「こういったイベントをもっとやってほしい！」というお言葉を頂きました。大変うれしく、またがんばろうと思えた次第です。将来的には、幹事や運営委員に加えて会員の皆様が企画するイベントが増えていくのではないかと期待もしております。今後もアクティブに、インタラクティブに展開していく認定心理士の会にご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

（認定心理士の会運営委員会委員 河地庸介）

若手の会から

「異分野間共同研究」の研究

日本心理学会若手の会は、「若手会員相互の交流促進」とともに、「幅広い分野の研究・教育・応用の融合、社会貢献」をミッションとして掲げています。この一環として、異分野協働をテーマとした合宿形式の研究会である、「異分野間協働懇話会」を毎年開催しております。会全体として様々な領域の心理学者が集まることを想定しています。自分の専門外の研究領域に触れた時、思いがけず自身の研究につながる気づきを得ることは珍しくありません。参加していただける皆さんにもそのような経験をしていただけることを願っております。第5回目となる今年度の開催は、感染症拡大の危険性をふまえ、やむを得ず中止となってしまいましたが、次年度の開催時には多くの皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

ところで、このような会を運営しておきながら最近知ったのですが、「異分野間共同研究」

をいかに促進するか、についての研究が実は精力的に行われているようです。たとえば、研究成果データベースにおけるテキストの類似性に基いて異分野の共同研究者を推薦する方法(!)の研究(荒木他, 2016)など、面白そうなトピックもたくさんあります。この研究領域も私にとってはまた「異分野」で、まだまだ研究動向を追いきれていませんが、異分野間協働における課題への理解をさらに深め、それを打破する工夫を盛り込んだ運営ができるといいなと思っています。

(若手の会幹事 前田駿太)

文献

荒木将貴・桂井麻里衣・大向一輝・武田英明 (2016). 研究成果データベースを用いた異分野の共同研究者の推薦. 第8回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2016), E1-3.